特集

3年ぶりのお祭り

8月11日(木)、本通で『めむろ夏フェス2022』『第54回芽室町納涼盆踊り大会』が開催されました。

コロナ禍の影響などで実に3年ぶりの「お祭り」となり、中心市街地は多くの人で賑わいました。

今月号では、当日の会場のようすをお届けします。

～子どもたちに、楽しい夏の思い出を～ めむろ夏フェス2022実行委員長に聴く

眞屋 寿広さん

芽室町生まれ。お祭りの日は学校が半ドンになり、相撲大会、餅まき、そして出店へ。肩がぶつかる人混みのなか、仲間たちと「その日だけは何をしても許される」と思わせる非日常の空間は、今でも忘れられない思い出と語る。

40年前、自分が子どもだったころ、多くの人たちがまちなかに集まり、活気に満ちた賑やかなお祭りがあった。それは、今も自分の記憶にしっかりと焼き付いている。時代の変化や様々な規制があるなかで、昔と同じように再現というのは難しいが、夏フェスのコンセプトである「子どもたちのために、郷土愛を育む」を胸に、5月から準備を開始した。

新型コロナ感染が広がりを見せる中で、ギリギリまで悩みながら、感染対策をしっかりと講じたうえで3年ぶりに開催。たくさんの子ども達が心から楽しんでいる笑顔を見て、「思い出を形に残すことができ、やって良かった」と安堵の表情で語る。

今回の夏フェスは、職種を越えて多くの若い人たちが結集し、知恵を出し合い実現に至った。

まもなく商工会青年部を卒業する眞屋さんは、次の若い世代に向け「人とのつながり、仲間との結束は大きな可能性を広げるもの。固定観念を覆す発想で、また新たな形を作っていってほしい。」と思いを語る。

3年ぶりの夏フェス。子どもたちの心に忘れられない思い出として、しっかりと胸に刻まれたことだろう。

▲夕方から始まった盆踊りでは、子どもから年配の方(恐竜も！)まで、会場一体となって盛り上がりました

▲お祭りでお馴染みの屋台をはじめ、移動式動物園やドローン体験など、会場の色々な所で新しい取り組みが見られました

▼感染症対策として、入場前には検温が実施され、黄色いリストバンドが配られました

▲まちの駅(観光物産協会)では、十勝スカイアースのイベントも。こちらも大盛況でした

▶ひときわ目を引いたのが、本通り2～3丁目間を南北に往復する馬車の乗車体験。馬車を引いた『桃姫(モモちゃん)』はNHK連続ドラマにも出演したのだとか。子どもたちにも大人気でした。

まちのうごき

8月19日～23日　揖斐川⇔芽室
揖斐川町の小学生がやってきた！

友好都市である岐阜県揖斐川町から研修訪問団の小学生12人が３年ぶりに芽室町へ訪れました。広大な畑や気候の違いに驚きながらも、農業体験やちいさな森のマルシェでの友好都市PR、芽室西小学校との交流などを行い、十勝芽室町の夏を満喫しました。今回の訪問をきっかけに、これからも両町の交流の懸け橋として活動してくれることを願います！

8月19日　芽室町役場
ゲートボール少年団「マチルダ」全国ジュニアゲートボール大会で準優勝！

ゲートボール少年団「マチルダ」の子どもたちが８月６、７日に埼玉県熊谷市で行われた第27回全国ジュニアゲートボール大会で見事準優勝に輝き、手島町長、程野教育長に報告を行いました。

マチルダチームは、A、Bの２チームが全国大会に出場し、見事Aチームが準優勝に輝きました。

全国大会を経験し、自信にあふれ、堂々とした子どもたち。これからもチームワークを大切に、“発祥の地芽室”のゲートボーラーとして活躍を期待しましょう！

8月26日　芽室町役場
東京ゲートボール連合との包括的連携協定

“ゲートボール発祥の地”芽室町は、東京ゲートボール連合（小泉敏章理事長）と包括的連携協定を締結しました。東京ゲートボール連合はこれまでも社会人大会やU70大会など多世代へのゲートボールの普及に精力的に活動しており、今回の連携協定を機会に特に若い世代のゲートボール人材の育成、発掘に向けて取り組んでいきます。

締結式は発祥の地杯大会の前日に行われ、短い時間でしたが、東京のチームの皆さんとの親睦を深めました。

8月24日　町内圃場
がぶりのじかん　B・Bも一緒に収穫体験！

食農教育「がぶりのじかん」の一環で、芽室小学校６年生と芽室西小学校３年生の166人がとうもろこしやじゃがいもなどの野菜の収穫体験を行いました。この日は、今年度、めむろ魅力発信特別アドバイザーに就任した日本ハムファイターズのB・Bも駆け付け、小学生とともに収穫をし、B・B自らドローンを操作するなど大変盛り上がりを見せ、参加した子どもたちにとって充実した時間になりました。

Memuro Unite Project（メムロ ユナイト プロジェクト）

Memuro Unite Project とは？

『まちなかの賑わい』を実現するため、商工会・農協青年部、役場の若手職員などを中心に結成されたチームです。取り組みや今後の展望について、実行委員長の川上さんにお話を伺いました

川上　徹さん

旭川市出身。現在（有）めむろプラニング専務取締役。
バンド経験があり、趣味はDJや料理。
ちいさな森のマルシェの主催や、馬車企画等で活動中。

『人』との繋がりを大切に

芽室の良いところについて「豊かな自然もそうですが『人』が魅力です」と語る川上さん。コロナ禍で悲観的になった時期もありましたが、様々な繋がりで支えられていることを実感し、前向きになれたそうです。

現在、プロジェクトのメンバーは23人。ときには難しい課題もありますが、お互いニックネームで呼び合うなど、楽しく活動することを大事にしているといいます。魅力的な『人』が集まったMemuro Unite Projectの活動に、今後も期待大ですね。

気になる今後の活動は…

現在、長期的な取り組みの拠点として、本通２丁目13－１に『Memuro Unite Base』を整備中。コミュニティスペースの機能を備えた場所となる予定です。

オープン目標は来年の春以降。活動の進捗状況はインスタグラムのアカウントで公開予定です。（QRコードからアクセスできます）

Unite Projectが考える『まちなかの賑わい』のイメージ

たとえば…

①お店が開いている
②定期的にイベントが開催されている（歩行者天国、お祭り、パレード…）
③町内外から来た人（＝お客さん）が歩いている。買物や飲食といった目的を持って滞在している

新たな視点で『まちなか』に賑わいを

芽室に移住して６年。町への愛着を感じ、以前から「町のために力になりたい」と考えていた川上さん。昨年、シャッター街再生や空き店舗活用に向けた活動を行っていた商工会青年部に入部したことで、その想いを新たにしました。

今年に入り「町をもっと良くしたい」と同じ想いをもったメンバーが集まり、Memuro Unite Projectが発足。

一過性の取り組みではない、長期的な目で見た『まちなかの賑わい創出』をミッションに、５月から活動がスタートしました。

撮影時のみマスクを外していただきました。